

イノベーション・エコシステムと地域・専門職労働市場

——米国東部ボストン地区の事例——

一橋大学 西野史子

1. 目的

本研究の目的は、米国東部ボストン地区を事例とし、イノベーション・エコシステムの地域的特徴と、地域・専門職労働市場の果たす役割について、シリコンバレーや東京との違いを視野に入れつつ明らかにすることである。サクセニアン（1995）によると、ボストンのルート 128 号線沿いとシリコンバレーは 1980 年代には二大イノベーション拠点として注目されていたが、1990 年代にはボストンは、大企業の閉鎖性により凋落し、一方のシリコンバレーはイノベーション拠点として急成長した。しかし 2010 年代以降、ボストンはバイオテック分野で再びイノベーション都市として返り咲いた。どのようにしてそれが可能となったのか。その中での地域・専門職労働市場の働きはどのようであったか。シリコンバレーとの違いは何か。本研究は、資本主義の多様性理論および、地域エコシステムの先行研究を踏まえつつ、地域労働市場の観点から検討を試みる。

2. 方法

研究方法としては、文献調査及びインタビュー調査、現地調査を用いる。インタビュー調査は、報告者を含む研究チームが 2017 年 1 月 3 月にボストンで行なった。また補足的に 2017 年 2 月にシリコンバレー、2017 年 5 月以降は東京にて実施した。調査対象は、ハイテク・スタートアップに様々な立場で参画する当事者、科学者、スタートアップ支援組織であるアクセラレーターやインキュベーター施設等である。

3. 結果

分析の結果は以下の通りである。第一に、ボストンが製薬のイノベーション拠点になった背景は、ケンブリッジ市のバイオ研究に関する規制緩和、MIT 周辺の研究拠点拡充に向けた都市開発、大学の科学者がベンチャーに参画する事例の蓄積、科学案件への投資という独自の投資スタイルなどの要素が相互に関係している。そこに製薬業界の開発方法の変化がうまく重なり合った。第二に、現在のボストンのイノベーション・エコシステムを支えているアクターは、大学の研究者、起業家、投資家、インキュベーターやアクセラレーターなどの起業支援組織などであり、最も重要な点はそれらの間の人的流動性である。ここに、地域労働市場、専門職労働市場の重要性が見出される。第三に、シリコンバレーとの比較の点では、ボストンの特徴は、人的流動性がありながら半ばクローズドなシステムであり信頼関係で結ばれている点である。この特徴と、製薬やハードサイエンスといった技術分野に相補性があったと考えられる。第四に、東京においては、大企業の内部労働市場を中心としたシステムが優勢であり組織を超えた人の移動は限定的であるが、組織間の連携の動きが多少生まれ始めている。

4. 結論

以上から、地域及び地域労働市場の特性に根ざしたイノベーション・エコシステムのタイプがあり、ボストンの特徴は人の流動性と信頼のバランスにあることがわかった。東京に関しては、エコシステムの黎明期であり、地域の特徴を踏まえた今後の発展について、継続的に観察していく必要がある。

<参考文献>

A. Saxenian, 1994, *Regional Advantage*, Harvard University Press(アナリー・サクセニアン著、大前研一訳『現代の二都物語』講談社、1995年)